

2012年度経営プラン

「2011年度実績」

CFO 櫻 日出雄

「2012年度経営プラン」

社長 柴田 光義

2012年5月10日
古河電気工業株式会社

2011年度実績

CFO 櫻 日出雄

1. P/L、B/S 説明
2. 営業利益増減分析
3. タイ洪水の影響額
4. セグメント別分析
5. 業績予想と実績の差説明
6. 11年度の取り組み
7. 品種別売上数量

11年度PL実績(前年比)

FURUKAWA ELECTRIC

PL	a	b	b-a	(単位:億円)
	10年度	11年度	増減	増減要因
売上高	9,258	9,188 -0.8%	-69	特殊要因+48、実質-117 地金+166、新規連結+107、在外子会社為替-225
営業利益	351	159	-192	特殊要因-120(P.6参照)
経常利益	314	129	-185	
特別利益	73	162	+90	固定資産売却(+71)有価証券売却(+34)
特別損失	-151	-272	-121	米国反トラスト(-153)、ガラス事業撤退(-26)
法人税等調整額	14	-59	-73	税制改正の影響(-34)
少数株主損益	-60	-16	+44	古河スカイ分(+41)
当期純利益	122	-111	-233	

(注)損益的にマイナス項目は-をつけた

11年度末BS実績(前年度末比)

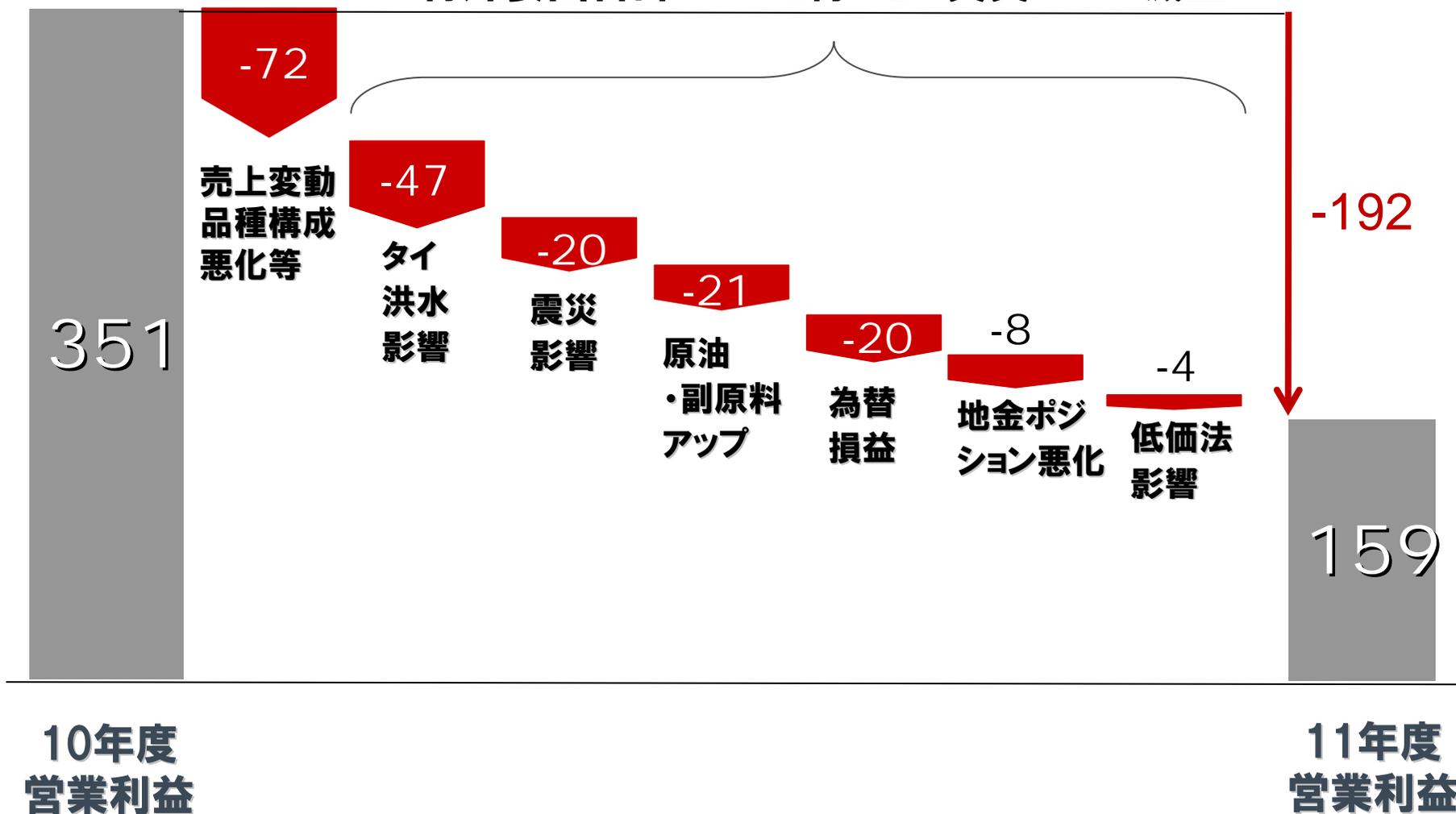
(総資産、有利子負債の単位:億円)

	a	b	b-a	
BS	10年度末	11年度末	増減	
総資産	8,269	7,901	-368	
有利子負債	3,416	3,252	-164	8年連続減少
自己資本比率	20.1%	18.3%	-1.8	
D/Eレシオ	2.06	2.25	+0.19	
総資産回転率	1.12	1.16	+0.04	
ROA (営業利益ベース)	4.2%	2.0%	-2.2	

11年度 営業利益増減分析

(単位:億円)

特殊要因合計-120を除くと 実質-72の減益



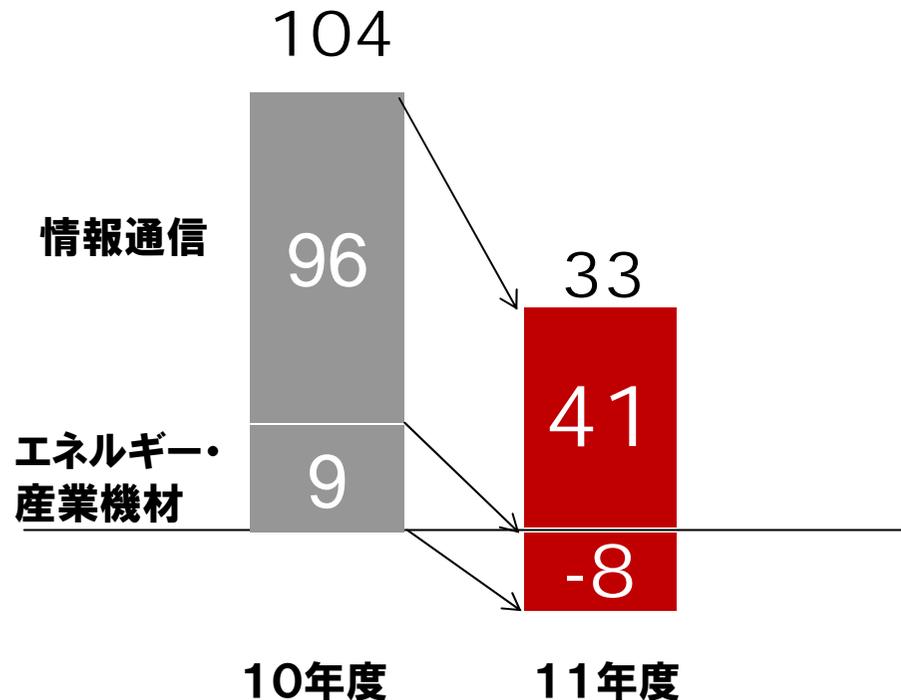
タイ洪水の影響額 (営業利益) と復旧状況

(単位: 億円)

	従来予想	年度実績	復旧状況
情報通信	-20	-13	光部品、3月より順次製造を再開 8月中旬までに復旧完了の見込み
エネ産機	0	0	
電装エレ	-23	-22	自動車サプライチェーンは復旧 ハードディスク需要の本格回復は7月頃
金属	-6	-6	めっき銅条は3月に再稼働、5月全面復旧
軽金属	-7	-6	コイルセンター14年に新工場で再開予定
合計	-56	-47	

セグメント別営業利益推移(前年比)

伝送インフラ系: 104⇒33 (-72)



【情報通信】

●光ファイバ・ケーブルでは、海外(北米・ブラジル)は好調でしたが、国内は円高や競争激化で低調でした。

●フォトニクス・ネットワークでは、光アンプや通信用レーザーは円高・価格下落による市況悪化に加え、タイの洪水の影響などで低調だったほか、ネットワーク機器は昨年ので地デジ特需の反動減により低調でした。

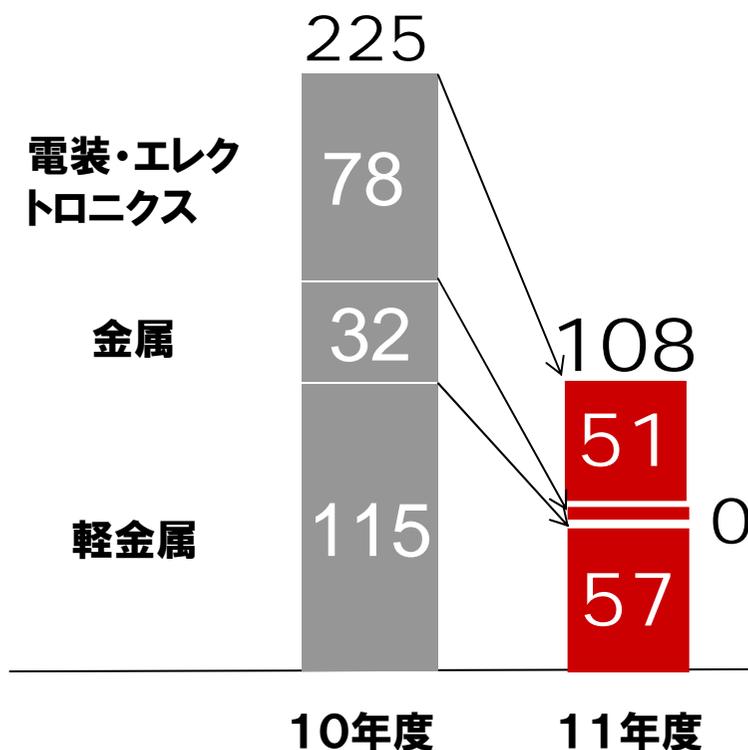
【エネルギー・産業機材】

●国内建築用電線は震災復興需要や価格体系の改定などにより好転したものの、電力会社向け超高压ケーブル・部品は国内は低調に推移し、中国は競争が激化しました。

●LED液晶TV用MCPETは夏場からの大幅需要減が響き、低調でした。

セグメント別営業利益推移(前年比)

高機能素材系:225⇒108 (-118)



【電装・エレクトロニクス】

●自動車部品関係は、震災からの回復過程でタイの洪水がありました。第4四半期から需要が急回復しました。

●エレクトロニクス分野の需要が大幅減となりました。特にメモリーディスク材、TEX(三層絶縁電線)が大きく落ち込みました。

【金属】

エレクトロニクス分野の落ち込みが大きく、電子部品用銅条、汎用銅箔が低調でした。自動車向けリチウム電池用銅箔も数量を伸ばしたものの、在庫調整の影響がありました。

【軽金属】

全般的に売上数量が伸びず、自動車関連や印刷板、輸出などが減少しました。

11年度業績予想と実績との差異

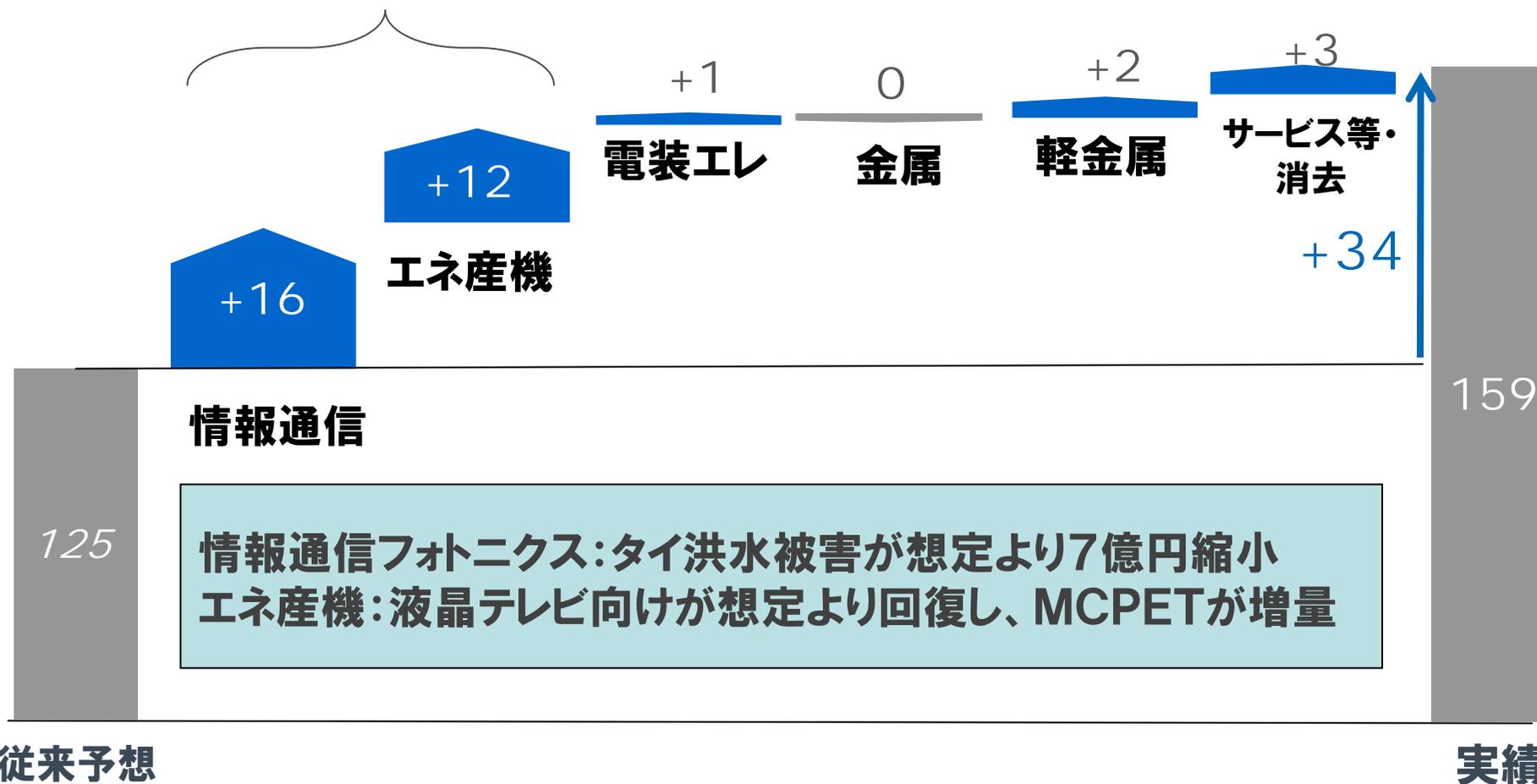
(単位:億円)

	11年度		増減
	従来予想	実績	
売上高	9,150	9,188	+38
営業利益	125	159	+34
経常利益	90	129	+39
当期利益	-150	-111	+39
諸元			
為替レート(円/ドル)	80	79.8	
銅ベース(円/kg)	690	717.8	
ドバイ原油(ドル/バレル)	109	110.0	

営業利益増減分析【11年度予想⇒実績】

(単位:億円)

フォトニクス、MCPET事業で上振れ



11年度の取組み

●事業構造の見直し

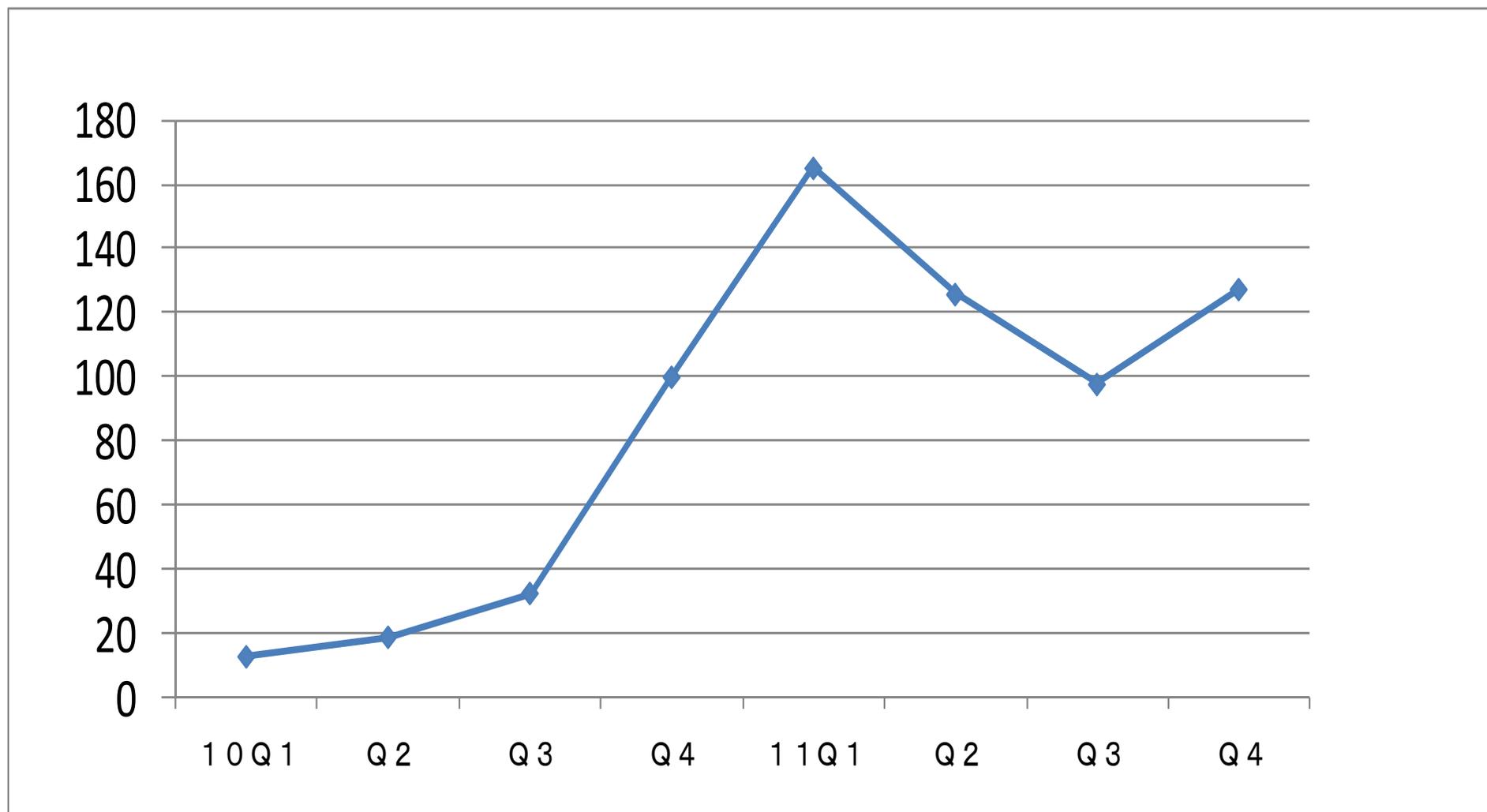
- ・ガラス基板事業からの完全撤退(12年3月末)
- ・銅管国内スリム化完了(11年12月)
- ・電力部品事業3社の統合決定(13年4月→12年10月へ前倒し)
- ・三菱電線の車載用コネクタ事業を買収(12年2月末)
- ・東京特殊電線の資本増強引き受け、連結子会社化(12年3月)

●投資有価証券、不動産等の資産売却

《液晶TV用MCPET》 売上量指数推移

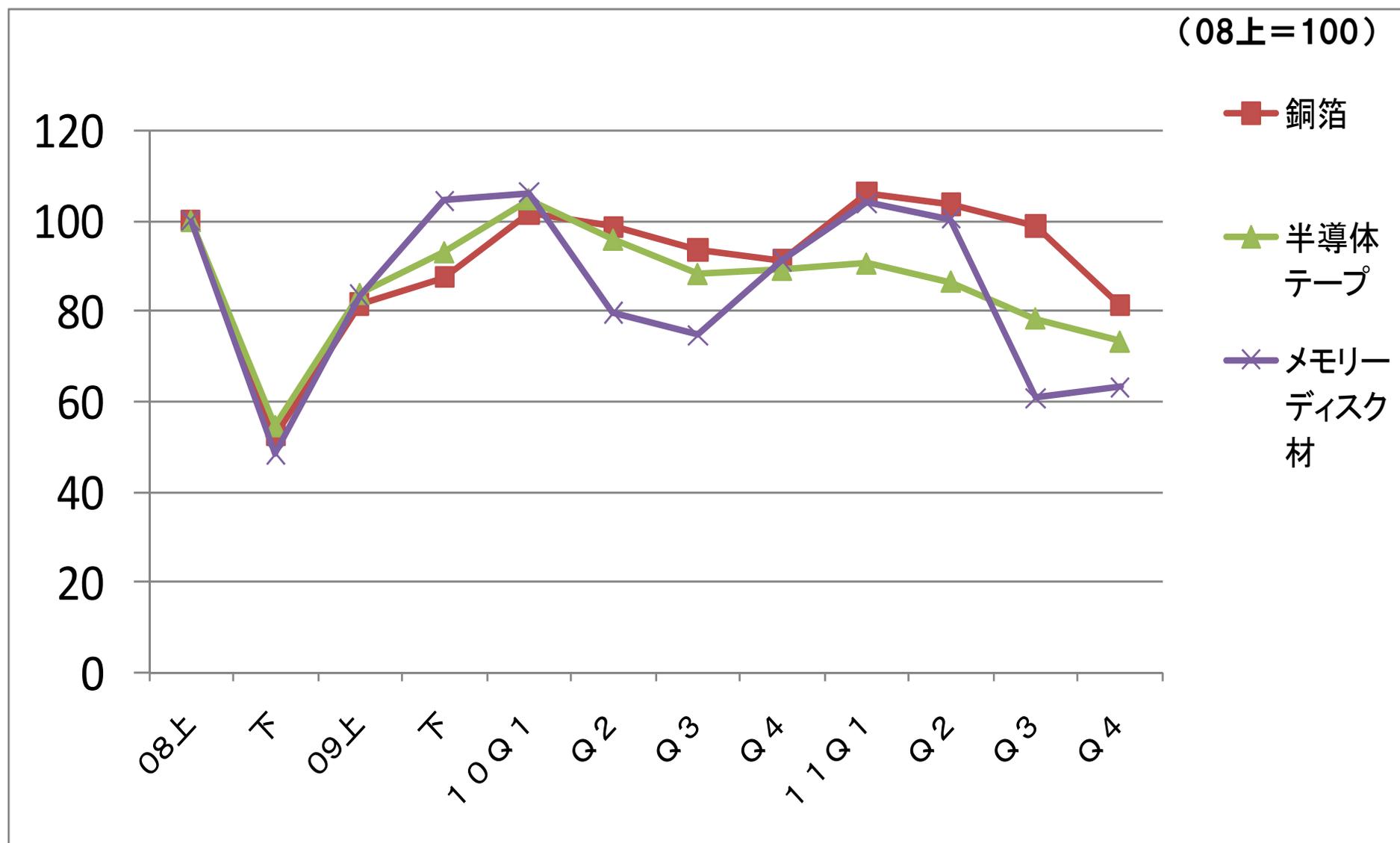
FURUKAWA ELECTRIC

(10Q4=100)



《高機能素材》 売上量指数推移

FURUKAWA ELECTRIC



2012年度経営プラン

社長 柴田 光義

- 1. 12年度当社事業環境認識**
- 2. 12年度方針と施策**
- 3. 12年度業績予想**

伝送インフラ系

《前年度比需要量の増減イメージ》

情報通信分野

光ファイバ・ケーブル :
フォトニクス :

国内:  海外: 
国内:  海外: 

ネットワーク :

洪水被害からの復旧による光部品需要の回復
デジタル・コヒーレント通信用新型レーザ需要増
国内: 
高速鉄道トンネル用携帯電波システムの減少

エネルギー分野

超高圧関連:

国内:  中国:  他の新興国: 

建設関連:

国内電力会社向け減、中国高需要・競争激化続く
汎用電線: 
建設用発泡製品: 

高機能素材系

《前年度比需要量の増減イメージ》

エレクトロニクス分野

液晶・半導体関連： 液晶TV用MCPETの需要回復 
半導体テープ ⇄ リードフレーム材 ⇄
PC関連 : サーマル、TEX、アルミMDは若干回復 
回路、リチウム電池関連： 銅箔 

自動車分野

国内：  市場は横這いも軽など採用車種は伸長
海外：  米国で回復、新興国での需要増
ワイヤーハーネス・部品： 
車載電池用銅箔： 

①グローバル商圏拡大「成長投資を遂行」

情報通信：光ファイバ母材 ヘントンとの合併立上げ(12年6月)

光ケーブル ロシアで新工場建設(13年7月)

エネルギー：ブラジルでOPGW新工場立上げ(12年10月)

超電導線材の米国スーパーパワー社始動(12年4月)

電装エレ：フィリピンでワイヤーハーネス新工場立上げ(13年3月)

金属：台湾で銅箔新工場立上げ(回路用12年6月、電池用同8月)

軽金属：タイで圧延新工場立上げ(14年1月)

②「真に勝ち抜く改革」スタート

検討下の主な施策(手法・時期は未定)

- ・**光ファイバ事業 オペレーションのグローバル統合**
- ・**国内光ケーブル事業 生産拠点再編による収益改善**
- ・**国内銅箔生産などの海外シフトを加速 等**



次期中計への「**架け橋**」として覚悟をもってやり抜く
社長直轄「**構造改革推進部**」で推進

12年度PL予想 前年比増収・増益(当期利益黒字転換) FURUKAWA ELECTRIC (単位:億円)

	a	b			b-a
	11実績	12予想	12上予	12下予	増減
売上高	9,188	9,800	4,600	5,200	+612
営業利益	159	250	80	170	+91
経常利益	129	235	65	170	+106
当期利益	-111	90	15	75	+201

前提

為替レート(円/ドル)	79.8	80
銅ベース(円/kg)	717.8	700
ドバイ原油(ドル/バレル)	110.0	115

*主要海外子会社は、決算期変更のため12年1月～13年3月の15カ月決算
⇒12予想PLへの影響:売上高+400、営業+17、経常+14、当期+8

12年度BS予想 有利子負債圧縮を継続

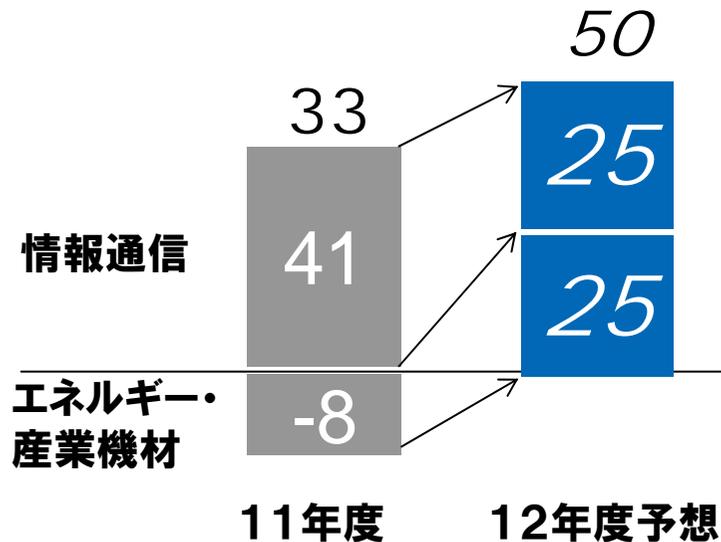
FURUKAWA ELECTRIC

(総資産、有利子負債の単位:億円)

	a	b	b-a
	12年3月末	13年3月末予	増減
総資産	7,901	8,000	+99
自己資本比率	18.3%	19.2%	+0.9
有利子負債	3,252	3,200	-52
D/Eレシオ	2.25	2.08	-0.17
総資産回転率	1.16	1.23	+0.07
ROA (営業利益ベース)	2.0%	3.1%	+1.1

セグメント別営業利益予想(前年比)

伝送インフラ系:33⇒50 (+17)



【情報通信】

●光ファイバ・ケーブルでは、国内は需要環境が厳しいものの、海外は好調が続くと見込んでいます。

●フォトニクス・ネットワークでは、デジタルコヒーレント通信の新規需要で新型レーザなどが増えると見込まれるものの、タイ洪水の影響が残ることや、国内FTTH・ネットワーク製品の需要が一段落することにより、低調に推移すると見込んでいます。

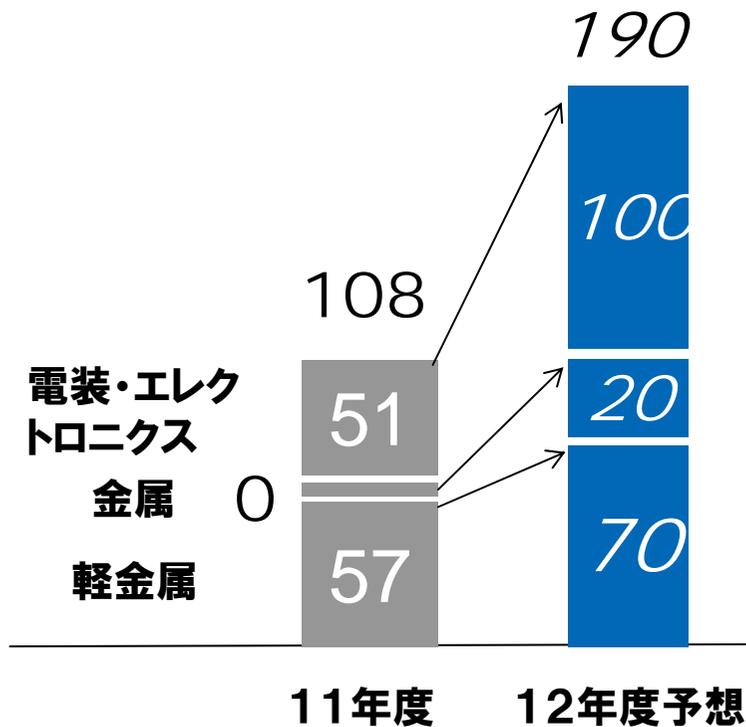
【エネルギー・産業機材】

●エネルギーでは、国内電力会社向けは減少するものの、海外は好転する見込みです。

●LED液晶TV用MCPETは需要増と償却費減により好転する見込みです。

セグメント別営業利益予想(前年比)

高機能素材系: 108 ⇒ 190 (+82)



【電装・エレクトロニクス】

●自動車部品関連では、エコカー需要が増えることで売り上げが伸長する見込みです。
●エレクトロニクス関連では、ガラス事業の撤退に加え、巻線やアルミMDが若干回復することなどにより好転する見込みです。

【金属】

エレクトロニクス分野を始め全般的に環境は厳しいものの、タイ洪水の影響減や償却費減などの影響により損益は改善する見込みです。自動車向けリチウム電池用銅箔は足元調整局面ですが下期には回復を見込んでいます。

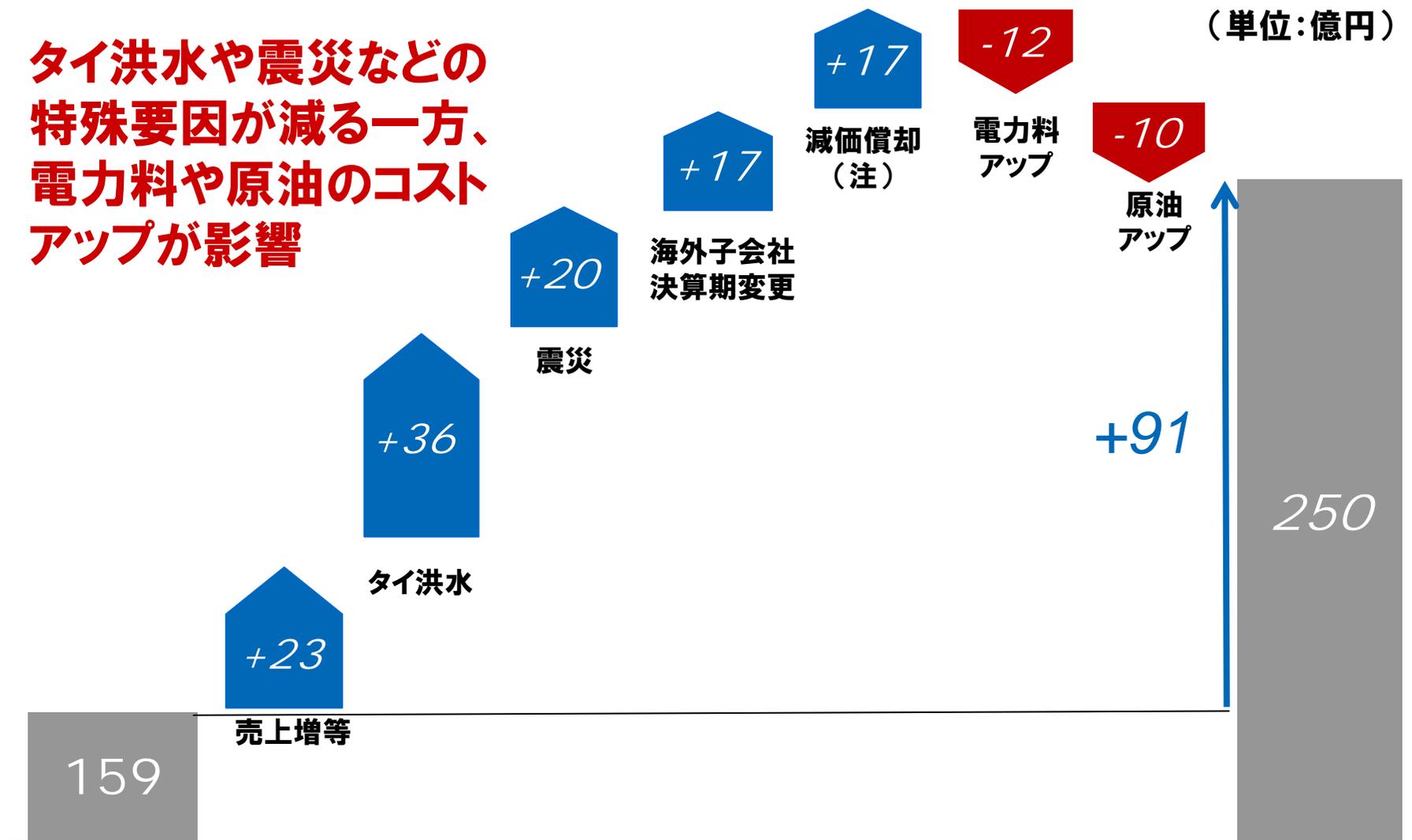
【軽金属】

原油アップのマイナス要因はありますが、タイ洪水の影響減、償却費減等で増益の見込みです。自動車関連、LNG船用厚板、箔地、輸出などの増量を見込んでいます。

営業利益予想増減分析

タイ洪水や震災などの
特殊要因が減る一方、
電力料や原油のコスト
アップが影響

(単位:億円)



11実績

(注)減価償却総計では前年比8減少だが、海外子会社13年1~3月分の償却を除くと17減少となる。

12予想

設備投資・減価償却費、研究費計画

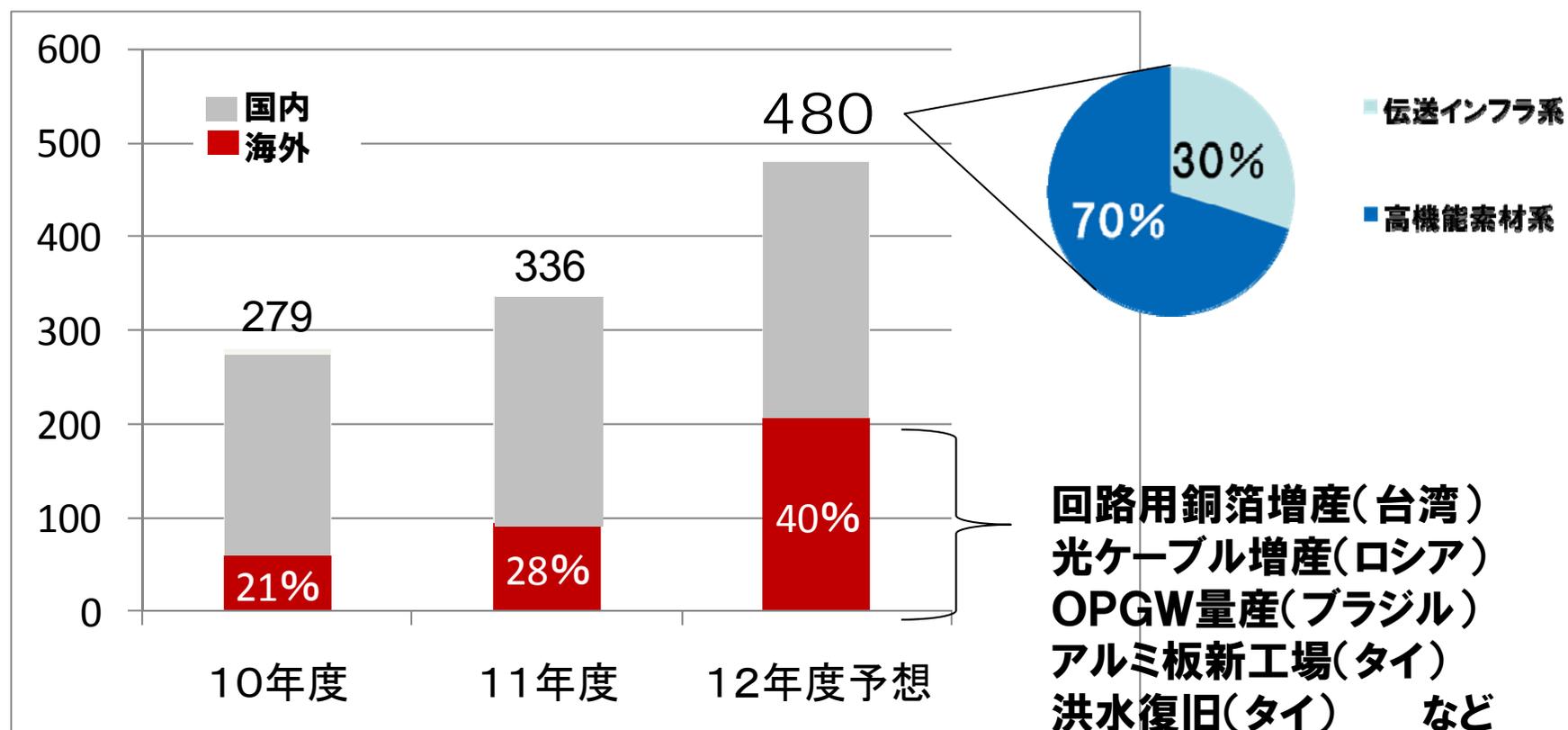
FURUKAWA ELECTRIC

(単位:億円)

	a	b	b-a
	11年度実績	12年度予想	増減
設備投資	336	480	+144
減価償却費	392	384	-8
研究費	190	206	+16

(単位:億円)

海外で銅箔・光ケーブルなどの増産、タイ復旧などに投資



12年度配当予想 前年度比増配

	11年度実績	12年度予想	増減
年間配当	2.5円	3.0円	+0.5円

当社は、安定配当を基本としながら、長期的な視野にたって、今後の収益動向を見据えつつ、将来の事業展開を勘案し、配当を行うことを基本としております。

12年度は未だ業績が回復途上であるため、中間期末は見送り、期末3.0円と予想いたしました。

ご清聴ありがとうございました。

Bound to  ***Innovate***

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。